

平成 26 年度  
発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業  
(発達障害理解推進拠点事業)  
成果報告書 (概要版)

実施機関名 ( 武雄市教育委員会 )

1 テーマ

拠点校を中心に、武雄市内の教職員一人一人が、発達障害を含む特別支援教育の専門的な知識を有する講師を招聘しての研修会等を通して、児童生徒の正しい理解と適切な支援ができるように専門性を高める。

2 問題意識・提案背景

市内小中学校における発達障害の実態は、医療機関から診断を受けている児童生徒及び保護者が発達障害ではないかと相談をしている児童生徒が平成 25 年度は 103 名、平成 26 年度は 110 名、担任等の気付きにより複数の教員が傾向あるとした児童生徒が平成 25 年度は 71 名、平成 26 年度は 69 名、平成 25 年度は合計 174 名 (児童生徒数 4,235 名)、平成 26 年度は合計 179 名 (児童生徒数 4,195 名) であった。児童生徒の割合でいけば、4.1%から 4.3%と徐々に増えている現状がある。

発達障害のある児童生徒への支援に関する教職員の専門性はまだ十分とは言えず、不登校や問題行動といった二次的障害が現れている児童生徒もいる。発達障害に関する市内教職員全体の専門性向上は、武雄市における喫緊の課題である。

そこで、本研究においては、教職員が発達障害のある児童生徒に対して、正しい理解と具体的な支援の在り方を身につけるために、研修会や授業研究会を中心に事業を進めた。また、就学前の行政機関、保育園・幼稚園、将来的に進学を希望する高等学校・県立特別支援学校等と密接な連携を図り、保護者への啓発を含めた事業として取り組んだ。

3 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
武雄市	たけおしりつ 武雄市立 たけおしょうがっこう 武雄小学校
武雄市	たけおしりつ 武雄市立 たちばなしょうがっこう 橋小学校



#### 4 拠点校における取組概要

- 拠点校の武雄小学校では、発達障害を抱える児童生徒の正しい理解と適切な支援ができるよう専門的な知識を有し、具体的な実践を数多く積まれた講師を迎えての研修会や授業研究会を5回開催し研修を深めた。(5回の研修会の1回は橘小学校との合同研修会) また、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくり、授業づくりに力を入れた。さらに、発達障害の特性に応じた支援を行う「拡大ケース会議(スマイル会議)」を実施した。
- 拠点校の橘小学校では、発達障害を抱える児童生徒の正しい理解と適切な支援ができるよう専門的な知識を有し、具体的な実践を数多く積まれた講師を迎えての研修会や授業研究会を4回開催し研修を深めた。(4回の研修会の1回は武雄小学校との合同研修会) また、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を中心に校内はもとより幼保小中連携を進めた。
- 拠点校の両校と武雄市教育委員会が中心となり、保護者への啓発を進めるための「教育講演会」を実施した。発達障害に関する理解と支援の在り方について専門的な知識を有し、具体的な実践を数多く積まれた講師を招聘して研修を深めた。

#### 5 主な成果

- 拠点校の武雄・橘小学校の研修会(授業研究会を含む)9回のうち、武雄小学校では、自校で開催した5回の研修会に「のべ120人」<参加率:100%>が参加した。橘小学校では、自校で開催した4回の研修会に「のべ41人」<参加率:93%>が参加した。
- 理解推進地域内の全ての教職員は、拠点校で行われた9回の研修会と、拠点校の両校と教育委員会が中心となり保護者への啓発を進めるための「教育講演会」に必ず1回は参加して研修を積むことができた。理解推進地区の教職員参加は「のべ人数は276人」<参加率は100%>であった。
- 拠点校の教職員は、発達障害に関する理解と支援の方法を学び、発達障害に関する専門性を高めることができた。また、理解地域内の全ての教職員の意識も高まり、「インクルーシブ教育システム」について「説明することができる」「知っている」という割合が7月のアンケートでは70%、1月のアンケートでは84%に上がっていた。
- 保護者への啓発が平成25年度は十分でなかったが、平成26年度には、武雄市連合PTAの協力を仰ぎ、教育講演会では、146名の保護者が参加し、発達障害に関する理解を深めることができた。
- 拠点校の武雄小学校では、「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり・環境づくり」を校内研究のテーマに掲げて学校全体で事業に取り組んだ。拠点校を含めた理解推進地域内の全ての教職員一人一人の発達障害に関する意識変容と、同時に学校全体で取り組む体制や関係機関との連携を重視した環境が整ってきた。
- 研修システムについては、教職員一人一人が気軽に悩みを共有しながら具体的な支援の在り方を見出すことができるようにワークショップ方式など多様な形態を取り入れたこと、また、他校(拠点校)の研修会に誰もが自由に参加できるシステムを教育委員会と連携して進めたことは大きな成果であった。

## 6 主な課題

- 「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり・環境づくり」を、各学校が意識して取り組んだ。しかし、それぞれの教職員の支援の在り方に差異がある。次年度も継続して取り組む必要がある。
- 武雄市には、全児童に配布されたタブレット端末を始め、ほぼすべての学級に電子黒板が設置され、「ICT教育」環境が整備されている。発達障害を抱える児童もこれらを使用し、意欲的に学習に取り組んでいる。より効果的な使い方について今後も研究を進めていく必要がある。
- 保護者への啓発については、研修会や講演会を開催するなど、今後も継続していく必要がある。

## 7 問い合わせ先

組織名：武雄市教育委員会

- |            |                         |
|------------|-------------------------|
| (1)担当部署    | 武雄市教育委員会学校教育課           |
| (2)所在地     | 武雄市武雄町大字昭和1番地1          |
| (3)電話番号    | 0954-23-8010            |
| (4)FAX 番号  | 0954-23-5189            |
| (5)メールアドレス | gakkou@city.takeo.lg.jp |